



自然保護管理委員
委嘱状交付式

4月22日、峰地域活性化センターで、平成21年度自然保護管理委員委嘱状交付式が行われました。

九州森林管理局と長崎森林管理署は、平成5年度か



ら、天然記念物であるツシマヤマメコノ保護・育成を図るため、民間の方々の協力のもと生息環境保全を行ってきましました。

今回、事業の継続にあたり、4名の自然保護管理委員を選任し、長崎森林管理署蔵原上級森林事務所の山口主席森林官から委嘱状が手渡されました。

管理委員の方々は、これから任期の1年間、森林管理署の指導のもと、上県町佐護地区の保護林及び周辺国有林で、ツシマヤマメコノの水飲み場の整備や生息状況の調査を行います。



製氷工場落成式

4月17日、豊玉町漁業協同組合水崎支所で製氷工場の落成式が行われ、県・市当局関係者、工事施工者、地元漁船団員など約120名が集まりました。

神事の後は、餅まきが行われ、地元住民が集まって大変盛り上がり、完成祝

賀会では水崎に水揚げされた赤むつが振舞われました。この製氷工場建築は、平成19年度合併事業3カ年計画の補助事業の中で行われ、総工費1億510万2000円で、昨年7月より施工されました。

今回、落成した製氷工場は3階建の鉄骨造で、総面積はおよそ140㎡です。3階が製氷機室(31・2㎡)、2階が室温マインス6の貯氷庫(54㎡)になっていて、1日の製氷は4t、貯氷は12tまで出来ます。氷の販売は、コイン、カードで行われ、地元漁業者が必要な時に購入出来ます。

夏場の漁期は、各方面から調達しなければならなかった氷も、この水崎支所でまかなう事が出来る様になり、漁業の発展が期待されています。



ひじき漁

4月24日、佐須奈漁協管内でひじき漁が解禁されました。

ひじき漁は、時期を見て、3回に分けて行われます。例年は4月9日前後の解禁ですが、今年は長さ、質ともに例年と比べ、成長が遅



れていた事から、約2週間遅れての解禁になりました。ひじき漁は、潮が引いている間にひじきを一気に刈り取り、収穫します。佐須奈漁協で収穫されたひじきは長崎県漁連に送られ、そこから長野県など本州に出荷されます。

対馬のひじきは「長ひじき」と呼ばれるもので、長いものは2メートルにもなる、日本一長い事で有名なひじきです。ひじきがここまで長くなる理由は、海水に成長を妨げるものが何もなく、栄養分が豊富だからという事です。

しかし最近では温暖化などの影響による磯焼けの被害が深刻となり、昨年の佐須奈漁協でのひじきの収穫量は17・7トン、売上は約1600万円でしたが、今年はこの比べて半分

ほどの収穫と予想されており、今後の漁が心配されています。

ひとつばたご祭り



5月3日、鰐浦地区で、今年で21回目の「ひとつばたご祭り」が行われました。

ひとつばたごは、モクセイ科の落葉高木で、真っ白な花を咲かせます。満開時の光景は、まるで新緑の山々に降り積もった雪のような美しさになります。

鰐浦地区は、対馬市の木

に指定されている「ひとつばたご」が群生することで知られ、この群生地は国の天然記念物になっています。地元の方によると、今年ひとつばたごは、例年より、1週間以上早く咲きはじめたことから、祭り当日の花のつきが心配されましたが、来場者は、純白の花を楽しんでいました。

会場には、地元特産品コーナーが設けられ、新鮮な海の幸、山の幸をはじめ、丹精こめて育てられた「ひとつばたごの苗木」が販売されました。このほか、上対馬高校茶道部と保育園児による野点や、ステージでは、舞踊やグリーンキッズによるバトントワリングなど、多彩な催しも好評で、祭りは今年も賑わっていました。



島大國魂御子神社大祭

5月3日、上県町佐須奈の島大國魂御子神社で、毎年恒例の大祭が行われました。今年の大祭は、あいにくの雨模様で、神輿が中止となりましたが、神社境内では、浦安の舞、子ども相撲が奉納された他、演芸なども披露されました。

島大國魂御子神社の歴史は古く、現在の社は、平成4年4月に完成したもので、地域の憩いの場となっています。昨年の大祭では、神社の鳥居横にある2本の大杉が「夫婦杉」と名付けられました。



ほほえみクラブ

巖原町で、転倒予防のボランティア教室を開いている「ほほえみクラブ」が、積極的な介護予防活動を認められ、県知事表彰を受け、市役所本庁で伝達式が行われました。

ほほえみクラブが取り組んでいるのは、対馬地域リハビリテーション広域支援センターが、お年寄りの転倒予防体操として考案した「いきいき元気！つしまやまねこ体操」です。平成18年に、この体操を中心にした介護予防活動を市民に普及させるために、ボランティア養成講座がスタートしました。そして講座を修了した市民らの参加で、平成19年3月に「ほほえみクラブ」が設立されました。

クラブのスタッフは現在19名。50代から80代までの世代の近い年代の利用者たちが、体操、体力測定、レクリエーションを行い、話し相手としてお年寄りに接

しています。活動は、春と秋の2回教室を開催し、今までに30回以上行ってきました。これまでに800人以上のお年寄りが、参加しています。

クラブのスタッフの一人、桐谷さんは「ほほえみクラブでは、今年5月から転倒予防教室を行う予定にしています。また、豊玉地区でも同様のグループが立ちあがり、お年寄りをケアするボランティア活動の輪は、確実に広がっているといえます。」と語っていました。



消防最優秀賞



長崎県消防職員意見発表会が島原市で開催され、対馬市消防本部の代表として出場した消防士、飯野聡さんが、最優秀賞を受賞し、佐賀県佐賀市で開催された意見発表会の九州大会に、長崎県代表として出場しました。

最優秀賞を受賞した飯野聡さんは「6分間、勇気・未来へ」と題し、対馬にAEDがあまり普及していないことに着目し、現場に居合わせた人による心肺蘇

生法の重要性やAEDの普及について意見発表しました。

飯野さんは、消防士歴2年、対馬市消防署美津島出張所に勤務し、消防・救急の現場で活躍しています。

茶摘み

5月に入り、美津島の根緒地区では、初夏の風物詩茶摘みが行われました。

地区内の永井ヤス子さんの茶畑では、5月1日から茶摘みが始まり、八十八夜の5月2日も、早朝から近所の方や親戚の方も一緒に、茶摘みに精を出しました。

茶を摘む時は、新芽の柔らかい先の部分を指先で素早く摘み取り、カゴに入れていきます。摘み取ったお茶は、近くの製茶工場に運ばれ、製茶されます。

永井さんをはじめ、根緒地区でお茶を栽培している10



軒程度のうち、ほとんどが自家用にお茶を栽培していて、毎年この時期になると、近所の方や親戚の方々に丹精込めて育てたお茶を分けています。

自分たちの手で育て、摘み取ったお茶を、年間通して美味しく頂いているそうです。

根緒地区の一番茶の茶摘みは、ゴールデンウィーク明け頃まで続きました。

消防指導大会



4月23日、第15回消防救助技術指導の地方大会が、対馬市消防本部の屋外訓練場で行われました。

この大会は、日頃鍛えた消防救助技術を競うことにより、あらゆる災害に対処できる強い体力と、精神力を養うことが目的で、毎年開催されています。

大会の種目には、「はしご登はん」と「ほふく救出」の2つがあり、初めの「はしご登はん」には7名が出場して、個人の救助技術が試されました。

「はしご登はん」は、命綱を体に結んだあとに、高さ

15メートルのはしごを上る競技です。この競技では、安全確実性と所要時間が評価されます。次の「ほふく救出」には、各地区の消防出張所から選抜された3人一組、8チームが出場しました。「ほふく救出」は、

空気呼吸器を装着したチームの2名が、高さ・幅90センチ、長さ8メートルのベニア板製の通路を通り、救助者役の1名を探して屋外に救出する競技で、チーム3人の息をぴったりと合わせるのが重要なポイントです。

審査の結果、「はしご登はん」は、豊玉出張所の阿比留史博さんが、大会4連覇。「ほふく救出」は、豊玉出張所チームが優勝を飾りました。



定期演奏会

4月26日、対馬市交流センターイベントホールにて、第9回対馬高校吹奏楽部定期演奏会が行われました。「アパッショナート」記憶に残る演奏を、「を合言葉に、新チーム35名で、クラシック、ゲストとの演奏、ポップスの3ステージ、計13曲を演奏しました。

前対馬高校吹奏楽部顧問の中村先生のサプライズ参加などもあり、会場は演奏者と観客一体になって盛り上がりました。



友情ウォーク



4月22日「21世紀の朝鮮通信使 友情ウォーク」のメンバーが対馬に到着し、市役所で齋藤副市長や職員の手に出迎えられました。

この友情ウォークは、江戸時代、朝鮮通信使が初めて日本に訪れてから、40周年目にあたる2007年に初めて開催され、今回で2回目になります。

日本ウォーキング協会、

韓国体育振興会、朝鮮通信使縁地連絡協議会の主催で、参加者は、ソウルを出発し、50日間をかけて東京まで歩きます。構成は、60代から70代が中心で、途中からの合流者を含めて、およそ50人が参加し、最高齢は79歳です。メンバーたちは、21世紀の通信使として、江戸時代に日本と韓国の架け橋となった、外交使節団「朝鮮通信使」が旅したおよそ2000キロをたどり、歓迎式であいさつに立つた齋藤副市長は、「日韓交流の歴史をたどり、友情をはぐくんではほしい」とメンバーの労をねぎらい、友情ウォークの成功を祈りました。また、友情ウォーク事務局長の遠藤靖夫さんは、「歩くことを通じて、改めて朝鮮通信使の意義を考えたい」と話していました。

その後、一行は、福岡から大阪までをバスで移動し、大阪から東京までの道のり、およそ600キロを歩いて、5月20日に東京・日比谷公園にゴールしました。

地域マネージャー制度 が対馬全域でスタートしました!!

地域の皆さんと行政職員が対等な立場で情報を共有し、地域の資源や課題について、共に考え、共に汗を流すことにより元気な地域づくりを見出していくことを目的とした“地域マネージャー制度”が5月20日(水)の上対馬町、比田勝小校区及び南陽小校区での説明会を皮切りに、市全域での取組みがスタートいたしました。

この制度では、地域の皆さんと地域を担当する市職員が一体となった協働のまちづくりを推進したいと考えていますので、今後開催されます地域での話し合いの場へ是非、足を運んでみて下さい。

説明会では制度の目的や地域マネージャーの役割などの説明が行われ、その後、行政区毎に担当マネージャーと区長や役員の皆さんによる意見交換を行い、今後の進め方や地域資源を活用した取り組み等多くの意見が出されました。

市民協働の地域づくりのため、また、地域の活性化のため一緒になって取り組んで参ります。

どうぞ、各地区を担当する地域マネージャーをよろしく願います。



5月26日(火)に開催された「美津島町鷓鴣鳴小学校区」での説明会の様子



対馬市福岡事務所 レポート

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目12-26福岡Dビル11F
TEL/092-481-6411 FAX/092-292-8786
ブログ/『対馬市福岡事務所レポート』 <http://tsjfk.exblog.jp/>
スタッフ/武末祥人・阿比留忠明・早田優子



第4回九州焼酎・泡盛フェアinヤフードームのご報告

5月16日・17日に行われた「第4回九州焼酎・泡盛フェアinヤフードーム」に、福岡事務所のスタッフも交代で参加しました。6つの業者(団体)が参加している対馬ブースのうち、「つしま倶楽部」のコーナーを担当させていただきました。

このコーナーでは、あなごの串焼き、いかの串焼き、いかゲソの串焼き、あなごのそぼろといかのこうじ漬けの軍艦巻きパックを販売。武末と阿比留は主に焼き場担当、早田は「対馬のあなごは、肉厚でぷりぷりで美味しいですよ」と販促活動を行いました。サントリーの営業の方々も応援に駆けつけてくださって、対馬ブースは結構盛り上がりました!

また、観光物産協会提供による「餅まき(1000個を4回に分けて)には、延べ約500名以上の方々にお集まりいただき大盛況。このフェアは、福岡の方々に対馬を売り込むとてもいい機会となりました。

福岡で見つけた“対馬のいいもの”

福岡事務所のスタッフが、福岡で触れた対馬の素敵なものや人などを紹介するコーナーです。



ランチ800円(税込)

Arbby Kitchen(アービーキッチン)の阿比留弘子さん西日本新聞やFM FUKUOKA(エフエム福岡)でも紹介された、中央区清川の「Arbby Kitchen(アービーキッチン)」に行ってきました。オーナーの阿比留弘子さんは、1978年に上県町佐護に生まれ、上対馬高校を卒業。佐賀県の短大を卒業後、保育士を経て福岡市内の飲食店に勤務。そして、2006年11月より同店をオープンされました。爽やかな笑顔とてきぱきとお店をきりまわす姿を見ていると、とても気持ちよくなるような女性です。実家で採れた新鮮な野菜や魚介類を使った(全てではありません)創作料理を提供され、ご両親が作られた「佐護米」も1キロ500円(税込)で販売されています。美味しくて暖かいハートを感じる素敵なお店です。(早田)

Arbby Kitchen(アービーキッチン)

〒810-0011 福岡市中央区高砂1丁目22-2-2階
アーク7番館205 TEL/092-522-2801
営業時間/11:30~14:00(OS13:50) 18:00~25:00
(OS24:00くらい) 定休日/日曜日・祝日